

## 1 研究テーマ

「情報モラル教育の推進をめざして ～情報モラル教育の推進の方策を探る～」

## 2 はじめに

パソコンや携帯電話の普及で、生徒は、学習や娯楽やコミュニケーションにおいて、多くの恩恵を受けている。一方で、社会の問題は、モラルの低下、家庭や地域の教育力の低下、社会体験の不足などが指摘され、そのことによる事件やトラブルが起きている。具体的には、迷惑メールの被害や生活習慣の乱れなどの実態があり、情報や情報機器に対する危機意識の低さを感じている。この状況に対して、学校として、「いつ、何を、どのように、だれが、」指導していけばよいのか、暗中模索の状況である。

## 3 研究の目的

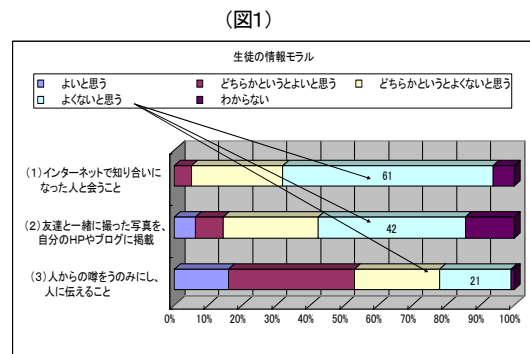
本研究は、生徒の情報モラルを育成するために、学校全体としての推進の方策を探るものである。

## 4 研究の内容

### (1) 実態把握

#### ①子どもの実態 (所属校2年生99名対象 7月実施のアンケートより)

パソコン・携帯電話の所有に対する調査では、自分専用は各9%、11%である。生徒の情報モラルについての調査(図1)からは、質問に対して「良くないと思う」と答えた生徒が、予想以上に少ない数値に留まった。つまり、「生徒の情報モラルは十分とはいえない」と、捉えた。



#### ②指導の実態 (所属校の教職員21名 6月実施のアンケートより)

情報モラルの指導に対する意識調査では、全員が情報モラル指導は必要だと答えていた。しかし、実際の指導については、困難がある。主に、「指導方法と内容について」と「教員自身の経験不足による不安」であった。

### (2) 推進活動の概要と考察

#### ①職員の意識向上へ

##### (ア) 職員研修

職員研修を2回、6月と10月に実施した。内容は、「情報モラル教育の必要性」と「2年生の実態と学校全体での指導の実態」である。研修後の意見では、「やはり何かしていかなければならない」「保護者の協力がまず必要」といった声があがった。また、指導の実態では、教科での指導がはっきりした。(表1) また、「心を磨く部分での指導が明確でない」ということが課題となった。

(表1)

| 指導内容の分類         | 所属校の指導内容  | 本校の指導内容の体系化へむけて「情報モラル」指導実践キックオフガイドとの照合 |
|-----------------|---|--|
| 情報社会の倫理         | 「著作権・肖像権の尊重」<br>☆理科全学年「自由研究」<br>☆技術2年「情報」 ☆美術               | 情報安全教育<br>知恵を磨く                        |
| 法の理解と遵守         | 「写真や絵や文章の違法コピー」<br>☆技術2年「情報」 ☆美術                            |  |
| 安全への知恵          | 「迷惑メールを送らない」<br>☆技術2年「情報」                                   | 課題                                     |
| 情報セキュリティ        | 「ID・パスワードを大切に」<br>☆技術2年「情報」                                 | 日常モラル                                  |
| 公共的なネットワーク社会の構築 | 「ネットでの中傷・人権侵害」<br>☆技術2年「情報」 ☆社会「公民」<br>「情報社会の課題」<br>☆社会「公民」 | 「心を磨く」指導                               |

##### (イ) 道徳授業の実践と公開

昨年11月に所属校の2年生を対象に、学年道徳の形式で行った。内容は、パソコンや携帯電話にかかわる事例ではなく、身近な情報、うわさ・新聞記事を扱うことにし、ねらいは、不審な情報やまわりのうわさに惑わされることなく、信頼関係による真の情報を信じることの大切さに気づくとした。(学習の流れは表2参照) 授業を終えての生徒の感想では、「世界では、IT技術(ネットワーク)が発達して、すべてのニュース(情報)が本当か、というのはないと思います。」「うわさは直接その人から聞いたことじゃないから、すぐに人に流されたり、信じたりしないで、自分が少

しでも動いてみる。」のように情報に対する正しい判断や望ましい態度への素地を感じるものが多く出てきた。また、この授業は、職員の研修（授業のイメージを共有・検討）もねらったものである。参観職員の意見や感想では、「よりよい人間関係をつくるうえで、情報との関わり方の大切さを学習できる内容として有効である」という評価であった。さらに、この授業の終末に、絵本の活用を取り入れてみた。この絵本は、相手が見えない、コミュニケーションの手段は「声」だけという場面設定である。生徒の現状は、インターネットやメールを家庭で使ったことがない者が多いので、この絵本を疑似体験的に取り入れた。参観職員の感想・意見「携帯電話やPCを使わなくても、この内容でできそうだ。」「絵本は、これを資料として授業しても面白そう。」から、教職員の授業に対する困りである抵抗感が少しは減ったのではないかと感じた。また、授業や短時間での実践への意欲を喚起できたと考えられる。

(表2)1時間の学習の流れ

| 道徳 「信じる?信じない? オシムの話」 |  |
|----------------------|--|
| 過程                   | 活動と内容  |
| 導入                   | 1めあての確認をする。<br>「うわさに対する自分の考えや行動」を振り返る。                                 |
| 展開                   | 2資料1を読む。<br>3選手Aの思いを場面に沿って考える。<br>4新聞記事やまわりのうわさを聞いた選手Aはどうすればいいか?を予想する。 |
| まとめ                  | 5資料2をよむ。<br>6感想を書く。 7絵本の読み聞かせを聞く。                                      |

②家庭・地域の啓発・・・「保護者にも関心をもたせる」

教職員の意識向上と共に、「保護者にも関心をもたせる」ことが欠かせない。保護者に情報モラルの大切さについて理解してもらい、家庭でも情報モラルを指導してもらう必要がある。

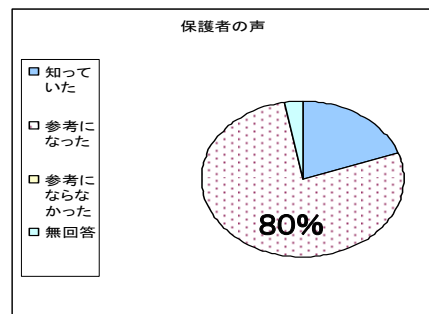
家庭通信の定期的発行（協同の依頼）

通信を内容と時期を検討し作成し4回発行した。(表3)さらに、3号と4号では、保護者の反応を調べた。(図2)まず、内容については、「参考になった」という意見が80%であった。感想や意見では、「子育てに関する意見や反省」「家庭でのルールについての意見や今の社会についての考え」が多く出てきた。この保護者の声を聴くことで、強く感じたことは、「情報を必要としている」ということである。家庭通信はこれまで発信だけであった。これでは、協同の効果は少ないと感じ、返信してもらうことを考えた。返信をしてもらうことで、保護者の声を聴き、また、それを返すことをした。このやり取りで、関心を喚起できたのではと考える。保護者からの声に、「今後も情報をお願いします。」の意見があり、協同依頼の成果でもあるとも考える。

(表3)

| 家庭通信で保護者啓発を！                      |  | テーマ | ポイント |
|-----------------------------------|--|-----|------|
| 1号(夏休み前)<br>(ネット社会・ケータイと学習)       | 2号(夏休み前)<br>(インターネットやメールとの付き合い方)       |     |      |
| ケータイに心が縛られ、学習に集中できない状況を具体的にデータで紹介 | ネット利用の子どもを親として知っておくことの必要性と子どもとの関わり方を紹介 |     |      |
| 3号(10月)<br>(思春期の子どもをもつ保護者の心構え)    | 4号(12月冬休み前)<br>(情報モラル教育の家庭でしか出来ないこと)   |     |      |
| 中学卒業後の携帯電話との付き合い方                 | 家庭でしか出来ないこと「家庭でルールの例示やフィルタリングの紹介」      |     |      |

(図2)



5 成果と今後の課題

今回の研究で、情報モラル教育の推進をめざして取り組んだことにより、教職員のやるべきことが少しずつ見えてきた。また、授業実践への不安感を軽減することができた。そして、保護者啓発により、保護者に関心をもたせることができたと考えられる。

しかし、学校としての指導体制において、系統的な情報モラルの指導ができるようにするなど、実用的なもの（全体計画）を作成することができなかった。また、道徳の時間における実践が少なく、授業で活用できる教材や指導例を蓄積していく必要があると感じている。

6 おわりに

情報モラル教育の推進をめざして、いざ取り組み始めると、道徳教育の充実、生活習慣の確立、コミュニケーション能力の育成等、現状の教育課題に密接に関連していることに気づかされた。そして、推進をしていくために大切だと感じたのは、職員が明確な意識を持って、家庭・地域との協同を含めて、指導を継続していくことである。これからも、高いアンテナを張って、情報モラルのことを学び、子どもたちの情報モラルを育てることができるよう、実践を積み重ねていきたい。